

ほむ・ほむ通信

№.24

山形県生協連で開催されました

各地の「ユニセフの集い」の
取り組みを紹介します！

山形県生協連では、4 月 13 日に「ユニセフの集い」がコープ桜田協同の家で開催されました。



従来は「募金贈呈式」として、活動報告と募金贈呈を中心に開催してきましたが、今年から県連ユニセフ推進委員会のメンバーで実行委員会を立ち上げ、「ユニセフ／やまがたの集い」として準備を進めてきました。共立社生協をはじめ、医療生協など県各地から 63 名の参加がありました。

集いは、オープニングとしてコーラスグループによる合唱から始まり、ユニセフグッズがもらえるユニセフクイズを全員で行ったりして、みんなで楽しくユニセフ活動について学び合いました。また、昨年12月に実施したハンドインハンドや各地での取り組み、03年度は188万を越えるユニセフ募金が集約され、ユニセフ協

会に送金されたことなどの報告がありました。

ビデオ「ユニセフと地球のともだち」を鑑賞したあと、グループ毎に「くらしから、ユニセフ・平和を考える」話し合いを行いました。戦争体験者の参加もあり、当時の苦労や思い出、特に自由がなくなったことなどのお話もいただきました。そして、グループ毎に私たちのできることすべきことについてまとめて、発表しました。

参加者からは、従来の贈呈式とは異なり、ユニセフクイズやビデオ、話し合いの中でユニセフについて学ぶ良い機会となった、来年は春休みに開催して、子どもや孫を連れて参加したい、などの感想も寄せられました。



秋田県生協連 「あきたユニセフのつどい」で募金を贈呈

秋田県生協連は、毎年4月に「あきたユニセフのつどい」で、一年間の募金の贈呈と指定募金の報告会、生協のユニセフ活動の交流会を開いています。参加するのは県内の生協の理事や職員などで、全体で県連を含めて8生協、50名ほどが集まる大きなつどいです。



今年のユニセフのつどいでは、まず募金贈呈式が行われました。各生協での報告用に各生協毎に写真をパチリ。その後、インド指定募金の報告と、来年度から取り組む予定のネパール指定募金についての学習をパワーポイント、ビデオを使って実施し、1時間程の学習を行いました。昼食を摂り、午後は参加生協の活動交流が行われました。

秋田県内の生協では2004年度までの10年間にわたり、インドへ指定募金を行ってきました。毎年県での募金目標額を達成するために、県生協連が生協毎で目標募金額を配分し、目標に向けてさまざまな取り組みを工夫をこらして行っています。今年はこんな活動が報告され、会場からはたくさんの質問が寄せられ、各生協での今後の活動の参考にしていました。

募金贈呈・学習・活動交流とセットにしたとても有意義なつどいでした。

●参加生協の活動交流●

●秋田市民生協

「各店の生協まつりでのバザー収益金は全てユニセフ募金にしています。班長会で班長のみなさんに募金のよびかけをお願いしたり、募金の用途をチラシにして学習したりなど積極的によびかけています。」



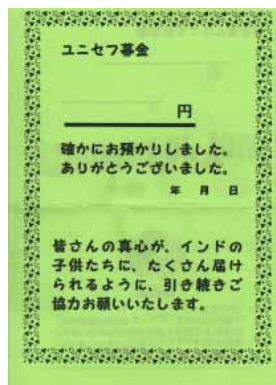
理事の方が店舗での忘れ物傘の布を利用して作った買い物袋。一枚350円で販売し、募金しています。（秋田市民生協）

●秋田県北生協

「ユニセフ委員会を立ち上げ、毎月ユニセフ通信を発行し共同購入で配布しています。組合員の集まる場所（試食会、総代会、理事会）には必ず募金箱を置きました。」



コープ委員の手作りの品々。ティッシュカバー100円、廃油せっけん100円、はしおき5個100円で販売。チューリップの花は100円以上募金してくれた人に配りました。そのほかにもビーズアクセサリーや腕力バーを製作。地区の活動やおまつり、バザーなどで販売して募金しています。（秋田県北生協）



募金をしてくださった方に手作りのお礼カードを翌週配りました。カードには手書きで募金額とお名前を書き、ハートのシールを封筒の裏にはりました。ハートのシールはとても喜ばれました。カードと一緒にチラシなどの資料も同封しました（秋田県北生協）

『手作りおやつで楽しいティータイム』『おしゃれアクセサリーと楽しいティータイム』『ミニポックリ作りと太極拳』の3つのつどいが実行委員（理事・コープ委員）の企画で各地区で実施され、会場ではユニセフのポスターを貼ったり、クイズや募金の呼びかけを行いました。つどいの企画では、写真あわせゲームなどを通じてユニセフの学習をしました。（秋田県南生協）

イラン地震救援募金を取り組みました～道央市民生協

昨年の12月26日にイラン東南部で発生した地震について、道央市民生協ではコープさっぽろとも連携を取りながら、イラン地震救援の緊急募金を取り組みました。協同購入では1月26日から2月7日まで、店舗では2月1日から20日まで募金の呼びかけが行われました。

例年この時期にはカレンダー募金が各コープ委員会で取り組まれており、今年も多くのカレン

ダーが寄せられました。カレンダー募金については「今年もやりますか」「どこに持っていったらいいの？」という問い合わせも多くなってきて、取り組みが広がっています。今年は、古切手や使用済みテレカ、書き損じハガキ、コインなども募って幅広く募金の呼びかけが行われました。

また、家庭の中で募金することの大切さや、自



分たちの幸せを親から子に伝えてほしいとして、今年は希望者にユニセフミニ募金箱を配布しました。こうした取り組みを通じて、約100万円の募金が集まりました。



イラク復興募金にも取り組み、こちらも約57万円が集まりました。今後も、途上国の実情に応じた支援活動や平和について話し合いながら、取り組みを進めていきます。

生活協同組合コープかごしま「キャンデーとお年玉募金」

21年目を迎えるお年玉募金の取り組みについて、かごしまの平和グループとしてどのような協力ができるのか話し合いました。そして、お店を利用する組合員に、もっとユニセフのことを伝えていくために、まずは関心を持ってもらうこと、そして募金に参加してもらうこと、協力していただけたら私たちからありがたいの気持ちを伝えること、そしてそのために何ができるかを考えて生まれたのが「キャンデー募金」です。

今回は、1月4日から30日までの取り組みですが、その期間中お店の募金箱のそばにキャンデーがいっぱい入ったかごを置いて、募金をした人にキャンデーを差し上げようというものです。この「キャンデー募金」案が生協内で評判になったのか、募金受付初日には県内の全17店舗でお年玉募金専用コーナーを設けるこ



とになりました。日頃は肩身の狭い思いをしている募金箱もあるのですが、この日は全店舗で主役です。

1月4日、お正月でにぎわう店内に、お店ごとに工夫された募金コーナーができま



した。キャンデーの入ったかごには「おひとどうぞ！」の添え書きがあり、募金をした人に手渡すオリジナルの感謝状もたくさん用意されました。いつもと違う募金コーナーの様子に思わず立ち止まる光景も見られ、キャンデーの山がみるみる小さくなりました。募金箱の上部に棒つきキャンデーを並べ立てたことも、しっかりと印象づけられたようです。

その後も私たち平和グループは、来店者の多い「消費税反対の日」やグループの例会日を有効に活用して店頭に立ちました。ちょっとしたアイデアが募金を呼びかける側にも新鮮に感じられ、今回はいつになく募金に応じた人々とことばを交わすこととなり、キャンデー効果は確かにあったようです。

(浜崎睦子)

コープとうきょう ユニセフハウスを訪問しました

コープとうきょうでは3月13日(土)、「コープとうきょう平和の日」の取り組みの一環として、ユニセフハウスを訪問しました。参加したのは大人17名、子ども21名の組合員さん。コープとうきょうの「子どもと社会を考える会」が企画し、機関紙などで組合員から広く参加を呼びかけました。日本や世界の子どもたちに起こっている現状を学習し、私たちは何ができるかを考えていくことを目的にしました。

当日は、最初に「ユニセフと地球のともだち」のビデオを見たあと、ユニセフハウスを展示ボランティアガイドの説明で見学しました。見学は大人のグループ、子どもたちの年齢別グループに分けられました。その後会議室で展示を見た感想や意見などの交換をし、ふりかえりを行いました。終わりに、子どもたちと一緒に「ひとつぶのたね～子どもの権利条約によせて」「世界がひとつになるまで」を、手話を交えながらみんなで歌って平和な世界にむけて心をつにしました。



タイムスケジュール

- 10:00 受付開始(現地集合)
- 10:30 会の説明、開催趣旨、注意事項
- 10:45 ビデオ「ユニセフと地球のともだち」
- 11:00 ボランティアの案内による展示見学
- 11:50 交流・ふりかえり・発表
歌と手話「ひとつぶのたね」
「世界がひとつになるまで」
- 12:30 感想記入後、解散

参加者のふりかえりシートより

<みんなが幸せにくらせるために、必要なことはなんですか？>

- ・みんながきょうりよくしあうこと。
- ・教育、自給自足していける経済状況、衛生の管理、生きる権利を主張していくこと。
- ・一人はみんなのために、みんなは一人のために実感しました。平和のありがたさ、平和を守りつづける努力は必要だと痛感しました。ありがとうございました。

【活動を通じてーコープとうきょう 子どもと社会を考える会 よりー】

子どもと社会を考える会は、コープとうきょうのくらしにかかわる組合員活動の一つとして、3年前に新しくできました。

初年度は、日本が批准した「子どもの権利条約」の条文を第1回日本政府報告書と照らし読み合わせ、日本の子どもたちの現状を探ってきました。

さらに昨年度は、子どもの権利の視点にたって、

地域における子ども家庭支援の実態調査をし、学校の子どもの現状を聞き、身近なわたしたちはどのように関わればよいのかを考え合いました。そして今回、ユニセフハウスの見学を通じ、子どもの権利条約に則ったユニセフ活動を子どもたちと共に知ることができました。

今年度もユニセフハウスの見学を企画し、子どももおとなもいっしょになって、地球上の子どもたちの現状を見て聞いて、いのちの大切さを感じ語り合ってみたいと思います。

●ユニセフハウスの見学は…

月～金、及び第二・第四土曜日(祝日を除く) 10時～18時まで

展示の案内を希望される団体・グループは2週間前にご予約ください。

TEL: 03-5789-2012 (日本ユニセフ協会 協力事業部)

ユニセフハウス: 東京都港区高輪4-6-12 (JR・京急品川駅/都営浅草線高輪台駅から徒歩10分)

ユニセフ国際シンポ報告「積み残された子ども達」

～EU拡大の陰で、深刻化するヨーロッパの貧困と人身売買～

5月21日、東京千代田区丸の内の東京国際フォーラムにおいて、ユニセフ国際シンポジウム「積み残された子どもたち」が開催されました。日本ユニセフ協会大使のアグネス・チャンさんがコーディネーターとして司会進行をつとめ、同志社大学ビジネススクール浜先生、一橋大学大学院梶田先生、ユニセフ欧州総局長フィリップ・オブライアンさん、モルドバ人身売買被害者リハビリセンターのアナ・ティルサノフさんら5名が人身売買をテーマにいろいろな角度からのお話をしてくださいました。

私が最初に驚いた事は、参加者の多さでした。会場はあふれんばかりの人・人・人。それも若い人たちがとても多い印象を受けました。

人身売買という重いテーマであり、日本人にとっては避けてしまいがちなテーマです。にもかかわらず、参加者は3200人以上だったそうです。これだけの人たちが関心を持ち、それぞれが考えるきっかけをもてたことが、まずすばらしい事であると思いました。パネラーの皆さんおひとりおひとりが違った立場からお話していただきましたが、あらためて問題解決のためにはさまざまなむずかしい問題が絡んでいるのだなあとと思いました。EUが拡大化していく中で、豊かになるものとそれについていけず貧しさへと進んでいくもの・・・そして貧しさゆえに人権さえも無視され、10代半ばの子ども達がひどい暴力を受け、だまされぼろぼろになっているのです。組織ぐるみの犯罪である事も問題を複雑にしています。子どもの人身売買は現在第4の波といわれヨーロッパで深刻化されているということでした。ヨーロッパというと私の中のイメージは、—美しい自然に囲まれた山々や、誇り高い文化のもとでいきいきと暮らす人々—というものでした。EUの拡大によっても、経済力が強まるというプラス面に目がいていました。しかしあらためて人身売買の実情をアグネスさんや実際にモルドバで被害者の救援活動を行っているアナさんの話を聞いた事で、私たちが今できることは何かを考えました。まず知る事です。そして私たち自身が人身売買に対してノーといえる事が大切です。次に広めていく事です。また法律面での整備も必要です。

シンポジウムでは、質疑応答の時間も設けられました。最後はアグネスさんのリードのもと、参加者全員で『今日の日さようなら』を歌いました。《さようなら》などいくつかの単語をモ



©日本ユニセフ協会

ルドバの言葉にかえて歌いました。聞くだけの一方的な形でなく、自分達もアグネスさんやパネラーの方々とうたを歌う事で気持ちの一体感を持つことが出来ました。テーマは重苦しいものでしたが、アグネスさんの優しい語り口に包まれ、ときおりユーモアを交えてのお話ぶりに、あっという間の2時間でした。参加して本当によかったと思います。若い方たちの熱気にも勇気づけられました。(福本朋子)

シンポジウムについては、日本ユニセフ協会のホームページに詳細な報告が掲載されています。

http://www.unicef.or.jp/siryo/sek_rep13.htm

世界の子ども達は今



「時々男の人がやってきて村の子どもを外国へ連れて行くんだ。僕のお母さんもその人に頼んで僕を外国へ行かせようとしたんだよ。」そう話してくれるのは、まだ11歳のノーディン。

(文) 松本真弓

(絵) 蛭沢素子

ノーディンの国、西アフリカに位置するベニンでは、1/4 以上の子ども達が小学校に通っていません。学校に通うのにもお金がかかるからです。けれども家族はお金のためだけに子どもを売るのはありません。子ども達をよその国で働かせれば、村に残るよりもいい生活を送ることができると思っています。親が少ないのです。

ユニセフは、子どもの売買をなくすためにベニン政府や NGO と協力して色々なことに取り組んでいます。

子ども達に訪れる危険を親や学校の先生達に伝える（研修、テレビ・ラジオで訴えるなど）。



人身売買の大きな原因となっている貧困を、少しでもなくしていくための「小額融資プログラム」



早くお母さんとお父さんに会いたい。家に帰ったらもう一度お父さんに僕は学校に行きたいと話すつもりだよ。もう外国へ連れて行かれるのはいやだから。



村に自治委員会をつくり、子ども達が連れて行かれないように監視をしよう。



この国

どんな国？

アンゴラの巻



30年もの間 内戦が続いた国の
現在の人口は60%が子どもたち



歴史

16世紀中葉よりポルトガルが支配。植民地支配の当初目的は奴隷貿易の交易所としてで、300年といわれている奴隷貿易の歴史のなかでも他のアフリカの国よりも多くの人々がアンゴラから選出されていたといわれています。

1960年代に入り1975年独立を果たすまでの戦いがあり、又独立後は政府 MPLA（アンゴラ解放人民運動、旧ソ連 キューバに軍事依存）と反政府ゲリラ UNITA（アンゴラ全面独立民族同盟・米国が軍事的に支援）との内戦が30年にも及び 2002年和平合意にいたるまで、実に約40年間 流血の時代が続いたことになります。

産業

農業に適した肥沃な土地 とうもろこし、コーヒー・砂糖・フェジョン豆

石油・ダイヤモンドの資源、魚も豊富 しかしその恩恵に預かっていない。

子どもたちのこと・ユニセフの支援

長年続いた戦争により、大人たちが少ない。実に約1318万人の人口のうち6割が子どもなのです。



©日本ユニセフ協会

しかし、その50%は学校へいっておらず、45%は慢性の栄養不良、25%は5歳まえになくなってしまいうという状態です。2003年 はしかのキャンペーン、バック・トゥ・ザ・スクールキャンペーンにより保健・教育面で支援を実施。又こどもの数と同じだけあるといわれている地雷問題、HIVエイズ対策など問題は山積していますが 今ようやく希望と再生に向けた新しい時代へむかっている国それがアンゴラです。（山本直子）

ぽむぽむ広場

☆ぽむぽむ通信の通算24号をお届けします。

☆全国のユニセフ協力活動の交流誌としての役割はもちろん、世界の国々や子どもたちの様子も積極的に紹介していきます。

☆全国の活動事例や、ぽむぽむ通信の感想・ご意見をぜひお寄せください。

☆次回は9月15日発行です。お楽しみに！

ユニセフ＊コープネットワーク

ぽむ・ぽむ通信

No.24 2004年6月15日発行

編集 グループ ぽむ・ぽむ

スタッフ・編集／尾澤・谷杉・浜崎・福本・藤森・
松本・山本・林田・北村・茂垣

イラスト／蛭沢

発行 日本生協連 組合員活動部

〒150-8913

東京都渋谷区渋谷3-29-8 コーププラザ11階

TEL03-5778-8124 FAX03-5778-8125

ホームページ <http://www.jccu.coop/>